

(5) まくわうり

※成熟した果実を収穫するものであり、未成熟な果実を収穫する漬物用まくわうりとは別である。

防除法 病害虫名	防除のポイント	薬 剤 防 除		
		防除時期	RACコード	薬 剤
1 苗立枯病 <i>Rhizoctonia solani</i>	1. 床土は排水のよい無病のものを使う。 2. 苗床の温度管理に注意し、急激な温度変化を避ける。 3. 換気を良好にし、床内を乾かす。			
2 つる割病 <i>Fusarium oxysporum</i> f. sp. <i>melonis</i>	1. 白菊座、新土佐系カボチャに接木する。 2. 耐病性品種を用いて畑は5～6年、水田は2～3年以上輪作する、 3. 石灰質肥料を施し、土壌酸度を矯正する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. 土壌消毒方法はⅢ－14、土壌病害虫の防除の項参照。 2. 発病後は有効な防除薬剤がない。	土 壌 消 毒	－ － －	ク ロ ー ル ピ ク リ ン ド ロ ク ロ ー ル ク ロ ル ピ ク リ ン 錠 剤
3 炭疽病 <i>Colletotrichum orbiculare</i> べと病 <i>Pseudoperonospora cubensis</i>	1. 発病苗は本圃に持ち込まない。 2. ポリマルチをする。 3. 草勢の維持管理に努める。 4. 日射、通風を良好にするため、適度の摘葉を行う。 5. 多湿条件で発病しやすいので、湿度管理に注意する。			
4 つる枯病 <i>Didymella bryoniae</i>	1. 連作を避ける。 2. ポリマルチや敷わらを行う。 3. 排水を良好にする。 4. 発病苗は本圃の伝染源となるので植えない。 5. 窒素過多は発病を助長する。 6. 被害植物のついた支柱やハウス資材はよく消毒する。 7. 被害茎葉は除去し、処分する。 〈薬剤使用の特記事項〉 1. トップジンMペーストを接木部に塗布する場合は、活着後に行う。	発 病 初 期	1	ト ッ プ ジ ン M ペ ー ス ト
5 疫病 <i>Phytophthora nicotianae</i> var. <i>parasitica</i>	1. 連作を避ける。 2. ポリマルチや敷わらを行う。 3. 高畝にして、浅植える。 4. 被害植物のついた支柱やハウス資材はよく消毒する。 5. 発病苗は本圃の伝染源となるので植えない。 6. 窒素過多は発病を助長する。 7. 排水を良好にし、溝の灌漑水を茎葉にかけない。 8. 被害茎葉は除去し、処分する。			
6 うどんこ病 <i>Sphaerotheca cucurbitae</i>	1. 生育後半には老化した下葉を摘除し、通風と採光を図る。 2. 収穫後の植物残さは圃場に放置せず、早めに処分する。 3. 肥切れを避ける。	発 病 初 期 从 来	M10	モ レ ス タ ン 水 和 剤
7 アブラムシ類 〔モザイク病〕 〔CMV〕	1. 苗床及び本畑周辺の発病株を取り除く。 2. 圃場の周辺に防虫ネット（1mm目合以下）を高さ1.3mぐらいいはったり、シルバーマルチ、シルバーテープを行うとアブラムシ類の飛来が少ない。 3. 発病株は早めに処分する。	定 植 時 発 病 初 期	4A 4A 4A	ア ド マ イ ヤ ー 1 粒 剤 ア ル バ リ ン 顆 粒 水 溶 剤 ス タ ー ク ル 顆 粒 水 溶 剤
8 タネバエ	1. 成虫は有機物の腐敗臭に誘引されるので注意する。 2. レタス、ハクサイ、キャベツ等の残根を処分する。			

農薬の使用方法や注意事項はラベルで確認する